



韓国レポート「1318Happy Zone・西大門地域児童センターを訪問して」

船橋市高根台児童ホーム 児童厚生員 平山裕子さん

前号で報告いたしました「放課後の子どもの居場所日韓シンポジウム」(平成22年2月27日開催)にご参加いただいた児童厚生員の方が韓国を訪問され、レポートを送って下さいましたので、ご紹介いたします。

韓国へ行ってきました

去る3月27日(土)に韓国の地域児童センターと中高生対象の施設「1318Happy Zone」を訪問してきました。主に、1318Happy Zoneで中高生と交流してきました。

場所は、地下鉄の西大門駅が最寄り駅で、ソウルでも下町の地域です。貧困、ひとり親家庭、問題を抱えた子どもたちが登録して利用している場所でした。定員は約30名とのことで、こじんまりとした施設でした。開館時間は12～21時までで、無料で昼食や夕食の提供があるのが一番の驚きでした。

スタッフ体制をお伺いしたところ、施設長のほか食事をつくる先生も含めて、常時4人のスタッフと約100名の登録ボランティアで運営されているとのことでした。

活動の様子から

私が訪問したときはちょうどランチタイムにあたり、子どもたちから「一緒に食べましょう!」と日本語で声をかけていただき、ごちそうになりました。その日は、韓国風の果物入りの甘口カレーをいただきました。



▲カレーの食卓にもやっぱりキムチが

音楽室のような部屋からは、管楽器の音がしていました。防音装置がないので、卵の紙製パックを壁に貼って音を消音しているそうです。すごい工夫ですね。

練習している子は、午後から大学で試験を受けるそうです。他の子は英語の発表があるそうで、なんだか緊張して落ち着かない子もいました。しかし、それぞれが目標を持って、学んでいるという印象を持ちました。ここでは、プログラムがしっかりとっていて、子どもたちは色々なことが学べるようになっていきます。

日本と韓国の違い

日本では、このような施設は「遊ぶところ」という感じがしますが、韓国ではちょっと違うようです。韓国では学生は「勉強が一番の仕事」ということで、ここに通わせている保護者は、子どもに勉強をさせたがっているそうです。私が「それは何のため?」と質問したら、「より良い生活や人生を送るための知恵をつけさせたいので」とのことでした。日本の親とはずいぶん違うと思いました。

子どもたちは、将来のために語学やパソコン技術は必須で、日本語を勉強している子も多く、どんどん知っている日本語で話しかけて

きます。日本に勉強に行きたいと言っている子が何人かいて、会話が弾み楽しいひとときでした。

問題を抱えている子どもたちが通っていると聞いていましたが、みんな明るく元気で、13～18歳までの異年齢の子どもたちが、家族や兄弟のように過ごしていました。ここに来るようになってから、情緒が安定したり、目標を持つようになったという保護者の感想をVTRで拝見しました。



◀みんなカメラマンになりたがっていました



▲西大門地域児童センターの前でスタッフの方と(左から2番目が平山さん)

韓国訪問を終えて

その後、すぐ近くの地域児童センターに行きましたが、土曜日ということで外でのプログラムがあり、残念ながら外出中でした。しかしメッセージが置いてあり、歓迎の意を表してくださいという暖かい対応に感激しました。施設の中を見せていただきましたが、キムチ冷蔵庫や台所があり、家庭的な雰囲気でした。ここで育った子どもたちが、1318Happy Zoneに通うようになるそうです。

子どもたちはブスロギ代表の李先生の暖かいまなざしに見守られながら、のびのびと育ち、希望や目標を持っているのが、とても印象的でした。2月のシンポジウムで聞いた「ミッション(使命)」という言葉の意味が理解できる、貴重な時間を過ごさせていただきました。

この夏、日本の児童館職員の方々と一緒に1318Happy Zoneユースフェスティバルに参加してきます! 次号以降でご報告します。